2026年8月17日



環境経営レポート

2025

第68期　2025年6月1日　～　2026年5月31日

池田建設株式会社

エコアクション21　認証番号　0008706

目次

ごあいさつ 1
組織の概要 2
環境経営組織及び役割・責任・権限 3
環境経営目標 4
環境経営計画 5
次年度の環境経営目標に対する取組結果及び次年度の取組 6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無 9
外部からの環境上の苦情・要請等 9
緊急事態時の訓練 10
代表者による全体の評価と見直し・指示 10
これまでの環境活動 10

ごあいさつ

私たちは上伊那地域を拠点に「環境・ひと・まち」を大切にし、「ずっと住み続けたい街づくり」を目指して企業活動を展開しています。

昨今の気候変動による災害の頻発化は、地域の安全を守る建設業者として看過できない事態です。この認識のもと、環境配慮型経営を軸に捉え、SDGs およびエコアクション 21 の実践を強化しております。

現場での創意工夫を「質の高いモノづくり」に繋げ、社員一人ひとりがやりがいを感じられる組織を目指します。本レポートを共通言語として、全体の PDCA サイクルを回し、さらなる改善に取り組んで参ります。

環境経営理念

当社は、長野県の上伊那地域を中心とした土木、建築工事の事業を行っています。

この事業活動における環境への影響を理解し、環境経営を優先課題と位置づけて、従業員と協力し、EA21 環境マネジメントシステムを構築運用し、継続的改善と汚染の予防に努め、以下の事項について自主的、積極的に取り組みます。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法令を遵守します。
2. 事務所での電気使用を削減し、暖房、作業、運搬及び乗用車の燃料使用を減じ、CO2の排出量を削減します。
3. 事業活動に伴う廃棄物を削減するために、3R（リデュース・リユース・リサイクル）を積極的に推進します。
4. 建設現場や敷地から排出する水の汚染、汚濁を防止し、事業所での雨水利用や節水に努め、水資源・水循環の健全化を推進します。
5. グリーン購入の拡大を推進します。
6. 環境に配慮した工法の提案、地域産木材を多用した在来木組み工法の住宅建築促進と、長期に使用していただくためのリフォーム、メンテナンスサポート・サービスの提供を推進します。
7. この環境経営方針は全従業員に周知、徹底します。
8. SDGs に対する認識を高め、全社で取り組みます。

環境経営方針（平成 26（2014）年 2 月 1 日制定、令和 6（2024）年 2 月 27 日改訂）

代表取締役社長　池田　幸寛

エコアクション21
認証番号 0008706

組織の概要

会社概要

会社名	池田建設株式会社
所在地	本社　　長野県伊那市日影 329-1 第1倉庫　　長野県上の原 5986-1 第2倉庫　　長野県上牧 7193
創業	1959 年（昭和 34 年）3月16日
資本金	3,960 万円
代表者	代表取締役社長 池田幸寛
事業年度	2025 年6月1日 ～ 2026 年5月 31 日
事業規模	延べ床面積：本社（816.7m2）/第1倉庫（1103m2）/第2倉庫（700.5m2） 売上高：　1,016 百万円 従業員数：30名
環境担当者	環境管理責任者 技術部長 加藤博 環境担当者　　技術部　青木南奈
連絡先	TEL:0265-72-3422 / FAX:2065-72-3750



認証・登録の対象組織・活動

登録組織名	池田建設株式会社（全組織）
対象事業所	本社、資材倉庫（第2倉庫）
事業活動	土木工事業、建築工事業
対象期間	2025 年6月1日 ～ 2026 年5月31日
レポート発行日	2026 年 8 月 17 日

事業内容

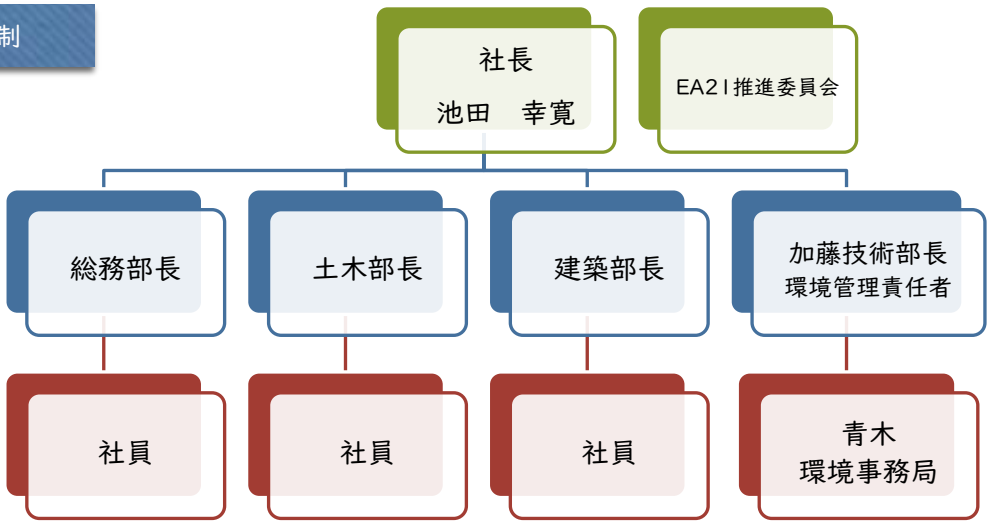
宅地建物取引業	許可番号 長野県知事（9）第 3306 号
一級建築士事務所	許可番号 一級 長野県知事登録(伊那) J 第 15063 号
総合建設業	許可番号 長野県知事 許可（特-7） 第 22913 号
建設業の種類	土木工事業、建築工事業、大工工事業、左官工事業、とび・土工事業、石工事業、屋根工事業、管工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、鉄筋工事業、舗装工事業、しゅんせつ工事業、板金工事業、ガラス工事業、塗装工事業、防水工事業、内装仕上工事業、熱絶縁工事業、建具工事業、水道施設工事業、解体工事業
産業廃棄物収集運搬業	許可番号 2003158888

他認証・登録

エコアクション 21	認証・登録 008706
長野県 SDGs 推進企業	第 9 期 登録番号 924
健康経営優良法人	2026 中小規模法人部門
中部地方整備局 災害時の基礎的事業継続力	認定番号 Cbr21_004
伊那市消防団協力事業所	認定

環境経営組織及び役割・責任・権限

組織体制



代表者：代表取締役社長 池田幸寛

- 環境経営に関する統括責任
- 環境管理責任者を任命
- 環境経営方針の策定見直し
- 環境経営目標環境経営計画書を承認
- 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等、経営資源を準備
- 代表者による全体の評価の見直し、指示
- 環境経営レポートの承認

環境事務局：技術部

- 環境管理責任者の補佐、EA21 推進委員会の事務局
- 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施
- 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
- 環境活動の実績集計
- 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
- 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
- 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
- 環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務所への送付）

環境管理責任者：技術部長 加藤博

- 環境経営システムの構築、実施、管理
- 環境関連法規等の取りまとめ表を承認
- 環境経営目標環境経営計画書を確認
- 環境活動の取組結果を代表者に報告
- 環境経営レポートの確認

EA21 推進委員会

- 環境経営計画の審議
- 環境活動実績の確認評価

部門長：総務部長、土木部長、建築部長、工務部長

- 自部門における環境経営方針の周知
- 自部門の従業員に対する教育訓練の実施
- 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成
- 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
- 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施
- 試行訓練を実施、記録の作成
- 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施

全社員

- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚
- 決められたことを守り、自主的積極的に環境活動へ参加

環境経営目標

前年度の実績を基準に年1%減を目標とします。電力は夏の気候による影響でエアコンでの電気使用量が大きく左右されることから、エアコン以外の電気使用量からの CO2 排出量を指標としています。また、工事箇所は受注状況によって毎年変わるため、事業所での数値としました。

軽油使用量について、昨年の中間審査において現場の使用量も含めるようにご指摘がありました。よって、軽油使用量は昨年度を基準とさせていただきます。

環境目標		基準年度 過去3年 実績平均	2025 年 目標 基準年度-1%	2026 年 目標 基準年度-2%	2027 年 目標 基準年度-3%
二酸化炭素排出量の削減					
電力（AC 以外）削減★	Kg-CO2	8,746	8,658	8,571	8,484
灯油使用量削減（事業所）★	Kg-CO2	8,857	8,768	8,680	8,591
自動車燃料削減★	Kg-CO2	67,127	66,456	65,784	65,113
社内目標値	Kg-CO2	84,730	83,882	83,035	82,188
電力（AC 限定）削減	Kg-CO2	2,781	2,753	2,725	2,698
現場の電力使用量削減	Kg-CO2	11,242	11,130	11,017	10,905
灯油使用量削減（現場）	Kg-CO2	8,857	8,768	8,680	8,591
軽油使用量削減（現場）	Kg-CO2	271,662	268,945	266,229	263,512
ガソリン使用量削減（現場）	Kg-CO2	2,033	2,013	1,992	1,972
液化石油ガス（LPG）削減	Kg-CO2	2.9	2.87	2.84	2.81
総二酸化炭素排出量合計	Kg-CO2	**381,308**	**377,495**	**373,682**	**369,869**
廃棄物の削減					
一般廃棄物の削減★	Kg	265	262	260	257
混合廃棄物の削減★	Kg	8181	8,099	8,017	7,936
建設副産物の再資源化率向上★	%	79%	78%	77%	76%
水使用量の削減					
全体の水使用量	m3	124	123	121	120
事業所のみの水使用量★	m3	109	108	107	106

★：削減指標とした項目

※二酸化炭素排出量は、中部電力ミライズの調整後排出係数を用いて算出しました。

2025 年　調整後排出係数：0.411kg-CO2/kWh

環境経営計画

二酸化炭素排出量の削減

エアコン以外の電力使用量削減
- 不要照明の消灯
- PC の電源管理、離席時のモニター消灯

エアコン限定の電力使用量削減
- 空調温度の適正化（室温 28℃）
- ブラインドによる室温管理



灯油使用量削減
- 室内暖房の 20℃設定

自動車燃料の削減
- アイドリングストップ推進
- 急発進、急加速の抑制
- 「エコドライブ 10 のすすめ」の掲示



水使用量の削減

雨水による植木の水やりや道具の洗浄

廃棄物の削減

一般廃棄物の削減
- 分別の徹底
- 古紙のリサイクル（シュレッダー廃紙との分別）



建設副産物の再資源化率の向上
- 現場で発生する廃棄物の分別とリサイクル

混合廃棄物の削減
- 手直し作業等による廃棄物量の削減
- 廃棄物発生量の把握
- 分別による減量
- 電子マニフェストの導入



その他

- 企業 PR による顧客獲得（HP 定期更新）
- 環境に配慮した商品・工法の提案（該当件数/総見積件数）
- 工事の ICT 化・効率化を推進し、建設ディレクター制度を活用した働き方改革
- 工事現場付近における特定外来生物対応、希少生物保護
- 健康経営優良企業の取組み

KENSETSU DIRECTOR
© 一般社団法人 建設ディレクター協会

SDGs 達成に向けた経営方針

インフラ整備に携わる当社は、経営理念「創意工夫し笑顔で誠実な仕事をしよう」のもと、一人ひとりが創意工夫し、資源を大切にして持続可能な社会づくりに努め、楽しく笑顔で仕事ができる職場環境を整備します。そして、SDGs のゴールに向け誠実な仕事をして水と緑を守り永続的な会社を目指します。

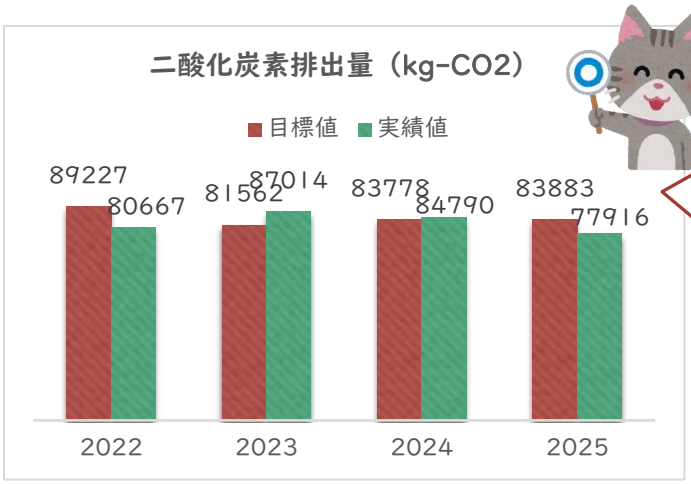
次年度の環境経営目標に対する取組結果及び次年度の取組

環境目標		基準年度 過去3年 実績平均	2025 年目標 基準年度-1%	2025 年 実績	達成率 (%)	評価
二酸化炭素排出量の削減						
電力（AC 以外）削減★	Kg-CO2	8,746	8,658	7,982	92.2%	○
灯油使用量削減(本社)★	Kg-CO2	8,857	8,768	6,718	76.6%	○
自動車燃料削減★	Kg-CO2	67,127	66,456	63,216	95.1%	○
社内目標値	Kg-CO2	84,730	83,883	77,916	92.9%	○
電力（AC 限定）削減	Kg-CO2	2,781	2,753	1,055	93.2%	○
現場の電力使用量削減	Kg-CO2	11,242	11,130	7,714	69.3%	○
灯油使用量削減（現場）	Kg-CO2	8,857	8,768	10,685	121.9%	×
軽油使用量削減（現場）	Kg-CO2	271,662	268,945	63,104	23.5%	○
ガソリン使用量削減（現場）	Kg-CO2	2,033	2,013	1,405	67.1%	○
液化石油ガス（LPG）削減	Kg-CO2	2.9	2.87	0	0%	○
総二酸化炭素排出量合計	Kg-CO2	**381,308**	**377,495**	**161,879**	37.7%	○
廃棄物の削減						
一般廃棄物の削減★	Kg	265	262	270	103.1%	×
混合廃棄物の削減★	Kg	8181	8,099	8,710	107.5%	×
建設副産物の再資源化率向上★	%	79%	78%	80%	102.6%	○
水使用量の削減						
全体の水使用量	m3	124	123	118	95.9%	○
本社のみの水使用量★	m3	109	108	112	103.7%	×

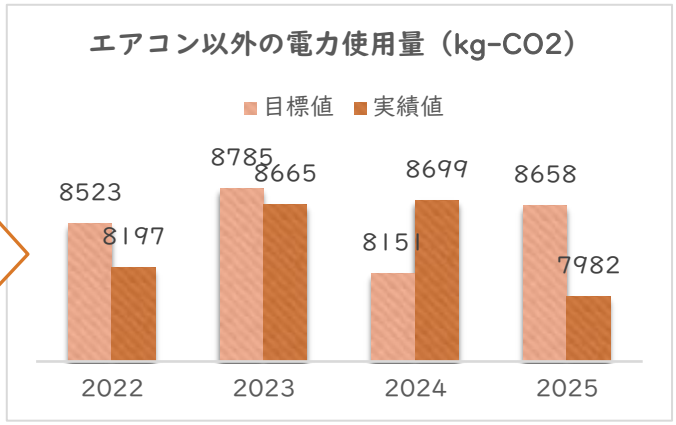
★：削減指標とした項目

※二酸化炭素排出量は、中部電力ミライズの調整後排出係数を用いて算出しました。

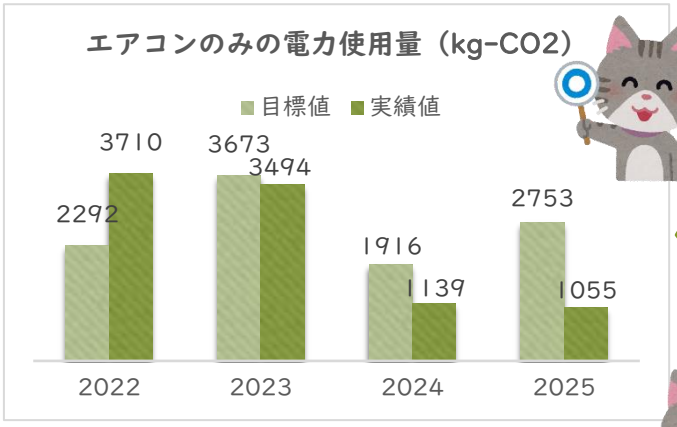
2024 年　調整後排出係数：0.411kg-CO2/kWh



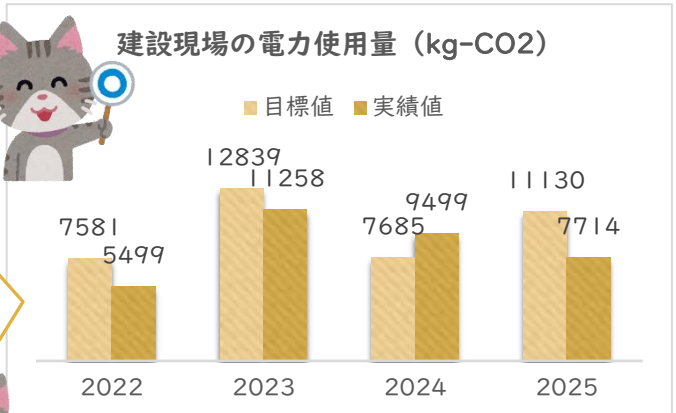
前年度から大きく減少しました。その中でも、現場の軽油使用量が大幅に減少し、本社で使用する二酸化炭素量が全体的に減少しました。



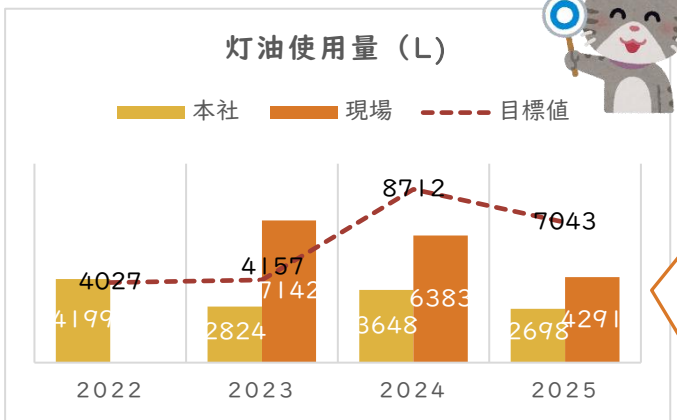
8,658 kg-CO2 を目標とした結果、7,982 kg-CO2 となり、目標達成できました。要因としましては、複合機を新調したことで使わない時間のスリープ性能が向上したと考えます。



2,753kg-CO2 を目標として、結果、1,050kg-CO2 となり、目標を達成できました。しかし、昨年の結果よりも数値は大きくなってしまいました。特に不要照明の消灯やパソコンのスリープモードの活用などを積極的に行っていました。引き続きサーキュレーターを使用した空気の循環を行います。

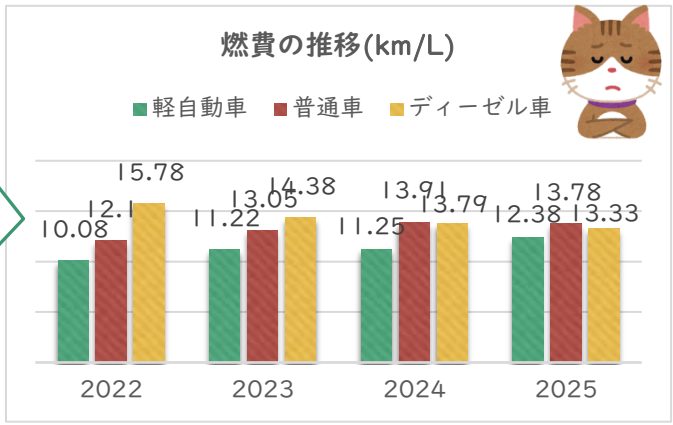


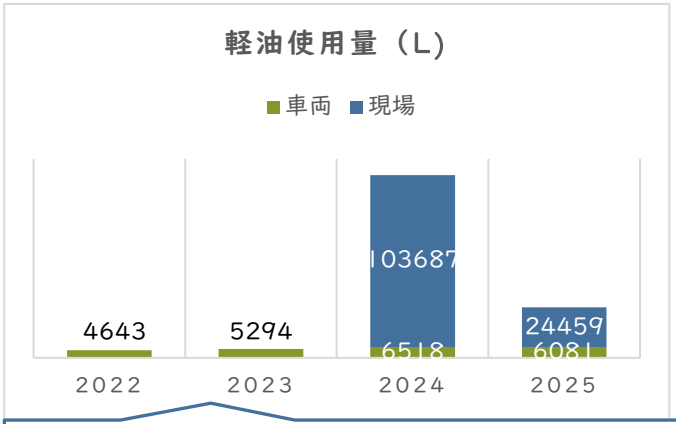
11,130kg-CO2 を目標とした結果、7,714 kg-CO2 となりました。冬季に動いている現場は、寒さが厳しい現場ではエアコンの他に電気ストーブを使用していることもあります。稼働していた現場にもよるため、今後も取り組みを継続します。



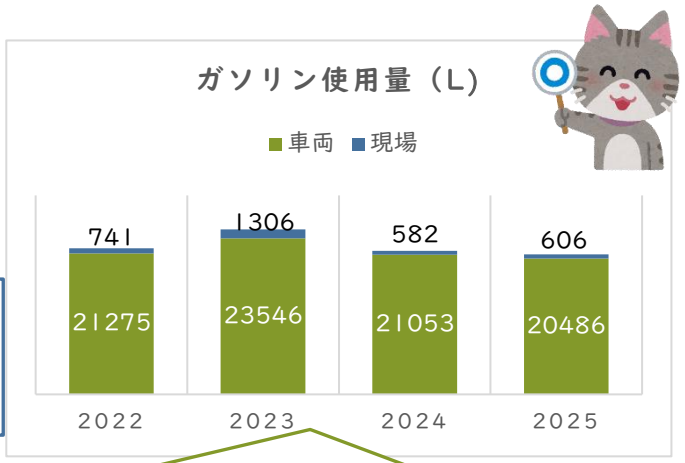
対象期間中の冬季は暖冬であったため、全体的に減少しました。特に、本社で使用する期間が例年に比べて短くなった他、寒さ対策で開けっ放しの出入り口をこまめに閉めることで暖かさを逃がさない工夫を行っていました。今後もサーキュレーターで空気を行き渡らせる工夫を継続します。

建設会社では業務をする上で車はなくてはならない存在です。そして、受注する工事の施工場所によって、ガソリンと軽油の燃料使用量のみでは評価しきれないため、燃費の評価も行うことにしました。ディーゼル車と普通車は「普通～良好」の評価ですが、軽自動車の燃費量は「改善の余地」がある数値です。

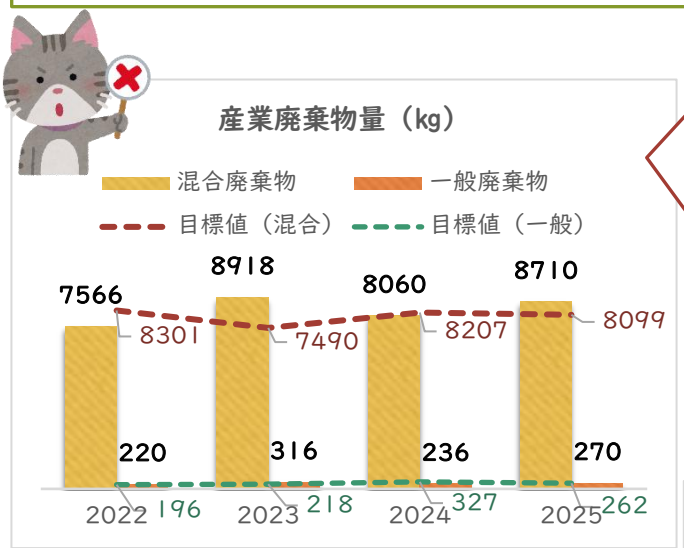




現場の軽油量が劇的に減少しました。昨年は河川工事が２件あり、ポンプを使用していました。今年度は河川工事がなかったため、軽油量が減少したと考えます。



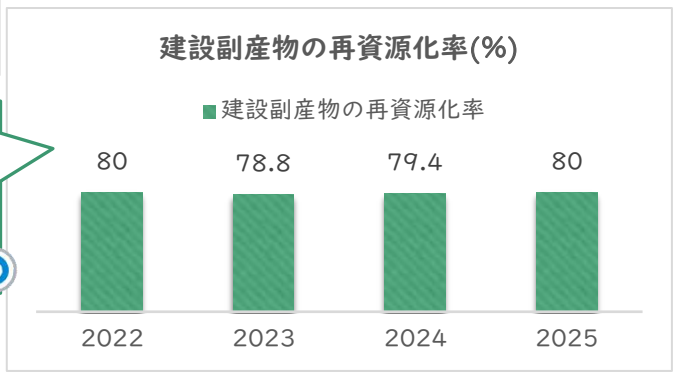
現場のガソリン使用量は増加していますが、車両は減少しており、全体的にはわずかに昨年度より減少しました。軽自動車の燃費が向上している結果に比例しています。今後も運転時の急ブレーキ・急発進を継続して行うと共に、「エコドライブ 10 のすすめ」を社員が見える場所に掲示しています。



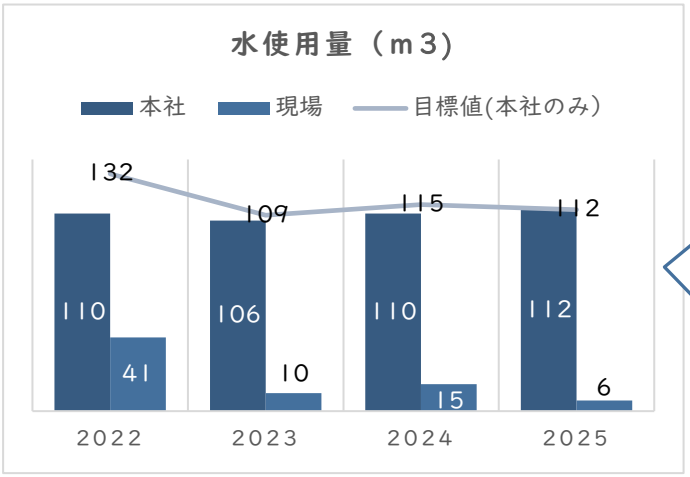
混合廃棄物は 611kg 増加した。廃材を多く発生する工事があったことが原因と思われる。

一般廃棄物はシュレッダーゴミが多く、特に竣工した現場の工事関連書類の処分で量が多くなる傾向にあります。県や市の発注工事は紙ベースが多いため、工事書類も多くなります。

廃棄物の発生は工事内容と深く関わっている部分ですが、会社としてペーパーレス化を推進し、現場内でなるべく廃材の発生を抑制する工夫をするように徹底させます。



再資源化率は向上しています。今後も、再資源の活用を意識した現場運用を行っていきます。





本社の水使用量は上昇してしまいましたが、現場の使用量は大きく減少しています。現場事務所での上水道の使用、仮設で使用する上水道が大きく減少したことで使用量削減に繋がりました。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

遵守記録結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は以下の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動）
廃棄物処理法	● 委託基準：産廃収集運搬・処分業者の許可の確認、契約 ● 保管基準の遵守（掲示板、飛散・浸透防止、衛生管理） ● マニフェスト交付、保管（A、B2、D、E 票：5年間） ● 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出
建設リサイクル法	● 分別解体等及び再資源化等の実施義務 ● 発注者への再資源化等完了報告と記録の保存
騒音規制法 / 振動規制法	● 特定建設作業の届出
水質汚濁法	● 油及び有害物質の流出事故時の措置と届出
消防法（危険物）	● 指定数量未満の危険物保管の扱い
フロン排出抑制法	第一種特定機器（業務用エアコン） ● 簡易点検（3 か月に 1 回以上） ● 点検記録の保存（廃棄後 3 年間）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。違反、訴訟等も過去三年間ありません。

外部からの環境上の苦情・要請等

苦情・要請等はありません。

緊急事態時の訓練

■　緊急事態の想定：地震

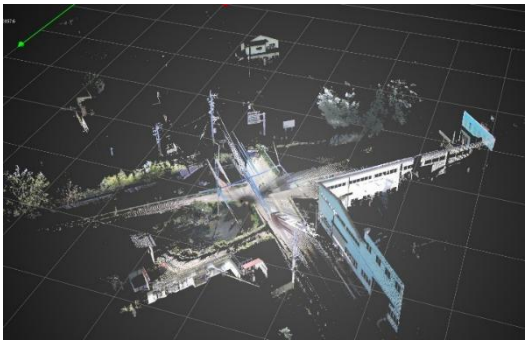
実施日：2025 年 9 月 18 日	実施場所：伊那市野底
参加者：土木部、技術部（計：5人）	

■　実施内容

地震発生時に早急な道路復旧を必要とする箇所で地上型レーザースキャナーを使用し地震で歪んだ道路の点群を取得する。



実施場所



取得した点群

代表者による全体の評価と見直し・指示

■　環境経営方針 ✓改訂の必要なし

現在の環境経営方針で進めます。

■　環境経営目標及び環境経営計画 ✓改訂の必要なし

昨年から、建設業特有の企業活動を考慮した基準値を設定したことにより、一時的な要因に左右されない、実態に即した評価を行うことができています。

■　実施体制 ✓改訂の必要なし

現在の体制で進めます。

2026 年 7 月 10 日

代表取締役 池田 幸寛

これまでの環境活動

伐採した木材を地域住民に配布

工事名：令和6年度 天竜川水系戸台砂防堰堤補強工事

発注者：国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所



戸台砂防堰堤　全景

施工範囲に被る樹木を伐採しました。従来では産業廃棄物として処理していましたが、資源の有効活用と地域貢献として、近隣の方々に無償提供を実施しました。（赤い部分の樹木を伐採）

高断熱・高効率設備の低炭素住宅の建築

工事名：M 様邸新築住宅

断熱性能 6 の高断熱の住宅を建築しました。断熱性能 6 は 2022 年に新設された断熱性能基準で、標準の断熱性能4を上回る等級となります。

家全体が一定の温度に保たれることでカビ・ダニの抑制につながり、エコだけでなく健康にも優しい住宅です。節水機能を有した設備を採用し、水資源の保護と共に給湯にかかるエネルギー消費を抑えます。



2 建物外観



3 第三者評価 BELS　書類抜粋

企業の PR 活動

IKEDA17_INA

公式 HP でブログの定期的な掲載と Facebook で PR してきました。昨年は、多くの方が利用する Instagram に公式アカウントを開設しました。小さな出来事や写真を共有しやすいメリットがあり、PR 効果も期待できます。

健康経営優良法人の取組み



4「健康経営優良法人 中小規模部門」 認定証

弊社では、2021 年から「健康経営優良法人 中小規模法人部門」で認定されています。昨年の有給休暇の取得率向上では前年の取得率 55%から 63%まで引き上げることに成功しています。目標値の 65%（全国平均）まで、あと少し及びませんでしたが、社内では過去最高の取得率を獲得できました。その他にも、LINE WORKS の掲示板で全社員向けに健康アドバイスを定期的に発信しています。

市民活動への参加

市民団体：三峰川みらい会議
特定非営利活動法人 天竜川ゆめ会議
一般社団法人 長野県南部防災対策協議会



4「ラブリバー天竜の日」河川清掃の様子



5 河川清掃で集まったゴミ

弊社は河川環境保全を中心に活動する市民団体に参画しています。関連団体が行う道路・河川の清掃活動に積極的に参加しています。一見きれいな河川も、こんなにゴミがありました。

女性職員による社内安全パトロール

女性職員による社内安全パトロールを行い、女性ならではの目線で事務所および現場の安全を点検しています。
指摘事項は月1回に定期開催される社内全体会議で発表しています。





6 安全パトロールの様子（2枚）

10月にパトロールしたこともあり、各現場で冬季での凍結対策を指摘する声や道路工事では片側交互通行が続いていることから行き交う車両との接触事故に注意する様子も見られました。

ICT と BIM/CIM の推進



5 地上型レーザースキャナーでの計測

昨年から、新たに「地上型レーザースキャナー」を導入しました。それまで、弊社が行っていた写真測量より高精度の点群が確保でき、さらに ICT 技術が活躍できるようになりました。
一方で、会社全体の知識力向上に向け、社内 ICT 勉強会を開催しました。ICT 活用工事と BIM/CIM 適用工事の一連の流れや間違いやすい言葉の違いを理解してもらうために第4回まで開催しました。